2024年第3回定例会（9月議会）報告

●一般質問項目●

国分寺市議会議員
高瀬（たかせ）かおる

1 ゼロカーボンシティの実現に向けて
　(1)建築物の断熱化の普及促進について
2 香害と化学物質過敏症について
3 児童の権利に関する条約の精神に基づく事業の推進について
　(1)子どもの権利を理解し守る取組について
　①子ども施策について
　②学校教育について
4 居住支援について
5 成年後見制度について

国分寺市議会議員
小坂（こさか）まさ代

1 子どもたちに豊かな放課後の時間を
　(1)学童保育所について
　(2)放課後等デイサービスついて
　(3)ランドセル来館事業について
　(4)児童館の中高生の利用について
　(5)こくぶんじ青空ひろばについて
　(6)放課後子どもプランについて
2 コミュニティ・スクールについて
3 子育て支援に本の力を
　(1)妊産婦向け図書館資料宅配サービスについて
　(2)ブックスタートについて
　(3)託児付き図書館サービスについて
　(4)市内の家庭文庫や地域文庫について
　(5)親子の居場所としての図書館

国分寺市議会議員
松岡（まつおか）まり

1 学校における食環境について
　(1)給食無償化とともに質の担保を
　(2)給食の牛乳飲用を選択制に
2 光町周辺地域の市民の憩いの場
　(1)公園空白地域の解消に向けて
　(2)保育所の園児の遊び場について
3 妊娠期からの切れ目のない支援
　(1)ベビーシッター
　(2)一時保育
　(3)家庭訪問型子育て支援
　(4)両親学級
　(5)産後ケア

市はなぜ居住支援協議会を設置しないのか？

建物の老朽化などによる退去、高齢になって階段のない一階に移りたいなど、住まいを確保することは、重要な人権問題です。高齢者や障がい者、外国人など住宅確保が難しい方々への物件紹介や入居の支援、入居後の見守りなど行う居住支援法人として活動する団体が市内にあります。一年半ほどの間に約40件もの相談が寄せられたとのことです。物件探しには、不動産業者や家主の理解と協力が欠かせず、その不安や課題を取り除く十分な協議が必要です。また、独居の場合、保証人や緊急連絡先の設定が難しく、経済的な背景の明示も含め、課題は多岐にわたります。

これらの課題を不動産業者や居住を支援する団体、行政が密に共有、連携しながら、住宅の確保に配慮を要する方々が円滑に住まい探しをできるようにサポートするのが居住支援協議会です。本年6月の法改正により、居住支援協議会の設置が努力義務となったことから、再度、設置を求めましたが、「引き続き研究する」との答弁で、現場との認識のズレが残念です。ただ、「住宅確保要配慮者が住むところに困らないようにどうすべきか、何が最適な対応なのか、居住支援法人や知見のある事業者、庁内の住宅部門、福祉部門も含めて話し合っていく」とのことです。一歩前進ととらえ、動向を見ていきます。

（高瀬かおる）

子どもの声を活かした放課後の居場所を

社会の状況の変化により子どもの放課後を取り巻く状況も大きく変わっています。好きなことに夢中になれる時間、時間を忘れて一緒に遊ぶ仲間。かつては当たり前のようにあったものが今では少なくなってしまいました。子どもたちにとって放課後の時間は遊びを通して社会で生きる力を育む大切な時間です。

その視点で今回の一般質問では、放課後の居場所事業にかかわる部署（子育て支援課、障害福祉課、社会教育課）に、課題や連携について質問をしました。

学童保育所と放課後子ども プラン事業は、管轄する省庁が厚生労働省と文部科学省であることから、連携がなかなか進まない現状があります。八王子市のように「放課後児童支援課」という部署をつくり施策を推進している自治体もあり、機構改革も含めた包括的な居場所の支援策の検討を求めました。

今回、質問するにあたり、夏休み中にオンラインアンケートで子どもたちの声を聞かせてもらいました。

「好きなように過ごしたい」「家でただのんびりしたい」「友達と遊びたい」・・・自由記載欄からは、子どもたちの叫びが聞こえるようでした。

子どもたちの健やかな成長のために必要な、遊ぶ権利や休む権利を私たち大人がまず知り守っていくこと、「あなたの気持ちをきかせて」と言える大人を子どもの周りに増やしていくことが必要なのではないでしょうか。

（小坂まさ代）

光町のハケ下地域に憩いの場を

国立駅の北側から国分寺崖線までのハケ下地域には、子どもたちが遊んだり、高齢者がくつろぐことのできる公園などが少ない状態が長年続いています。待機児童解消を目的として数年前から、この地域に保育所が数園増設されましたが、園庭がなかったり狭かったりする園もあり、お散歩で公園へ行くと他園とバッティングすることもしばしばあると聞きます。小さな子連れでの外出で、急な坂道のベビーカー使用は大変なため、国立方面や立川方面へ向かうことが多いようです。

子どもたちにとっての公園遊びは、健康な発育を促すこと、太陽の光を浴びて身体を整えることなど重要な働きがあります。市としては、「公園は少ないという認識ではあるが、新設の検討は進んでいない。開発事業が生じた際には、用地の確保に努める」とのことです。また、2025年に新庁舎へ移転した後、ひかりプラザには空きスペースができる予定で、4階には、2026年度に親子ひろばが導入されることが決まりました。この地域で小さな子どもを連れていける貴重な場として、気軽に利用しやすい場所となる設計を要望しました。

（松岡まり）

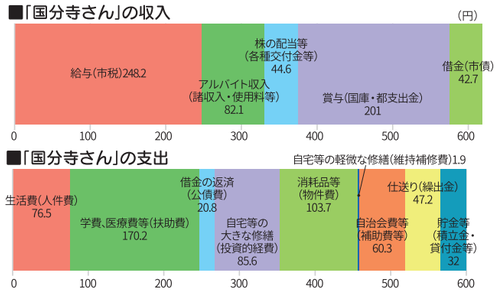
国分寺市2023年度会計決算について

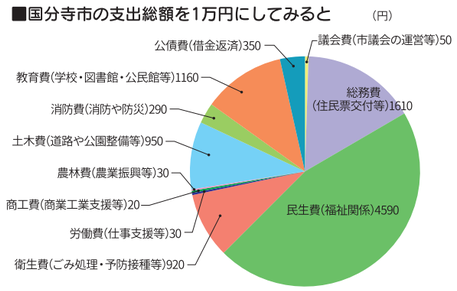
歳入については前年度比約47億円増、歳出については約56億円増、実質収支は約18億5千万円の黒字、単年度収支は約7億7千万円の赤字となりましたが、地方創生臨時交付金をはじめ、国や東京都の補助金なども有効に活用し、厳しい経済状況にある市民や事業者を支えるための給付金事業を進めたことは評価しました。

今後も現庁舎用地の利活用や、学校施設や教育環境の整備、その他公共施設を含めた建設費等に多額の財源が必要です。生産年齢人口が減少していくこともあり、基金と地方債のバランスをはかりながら、将来負担に留意した持続可能な財政運営に努めるよう求めました。

立川市では、中学生が学習補助資料に活用できるように、決算数値をもとに税金等の使いみちなどを解説した「やさしい財政白書」を毎年3月に作成しています。

この中には「立川さんちの家計簿」として決算を一万円分の規模にして、家庭の家計簿に例えてみたページもあり、これを参考に、国分寺市の2023年度決算書を「国分寺さんちの家計簿」としてグラフにしてみました。





一年間の収入は618・6万円、支出は598・2万円でした。収入面では、全ての項目で増加となりました。支出面では、消耗品など（物件費）、軽微な修繕（維持補修費）、自治会費など（補助費等）が減りましたが、大きな自宅の新築費用など（投資的経費）の増加により、支出合計は約56万円増えました。2023年度一年間では、新たに借金した金額（42・7万円）が貯金できた金額（32・0万円）より大きくなっています。老朽化が進む施設などの大きな修繕やこれまでの自宅（市役所）があった場所に建てる新しい施設の建設費、物価上昇への対応を考えると、今後も苦しいやりくりが続きそうです。

（小坂まさ代）

ぶんバス22年目の危機！外出の足をどうする？！

京王バス（株）から、運転手不足のため、4ルート運行しているぶんバス事業から撤退したい旨の申し出があったことが市報で報じられ、驚かれた方も多いのではないでしょうか。まさにぶんバス22年目の危機です。

これまで、市民の足として、公共交通空白地域の解消をめざし、補助金も支出しながら6ルートを運行してきました。道路の幅員が狭い国分寺市では新ルートを通すにも、警察との協議はかなり大変なものでした。本数を増やしてほしい、逆回りも運行してほしいなど、ご要望も多くいただくぶんバスです。もし今回、運行を廃止してしまうと、その復活は相当難しいものになると思われます。運転手不足は、当市に限った問題ではありませんが、路線バスまでも減便になる現状に、課題の深刻さと同時に、あらためて地域公共交通の大切さを感じます。

これからの人口減少等も踏まえ、何とか早急に対策を講じ、外出の機会を保障しなければなりません。

2025年1月6日からは、泉町の新庁舎に乗り入れるため、ルート変更が予定されています。市民説明会では、利用者から「変更により、バス停が遠くなりとても困る」との意見が多く出されていました。ぶんバスの継続と共に、ルートの変更や増設についても市民の声を聞きながら検討することが求められています。

（高瀬かおる）

レプリコンワクチンの安全性は?!

新型コロナウィルスが流行し、異例の速さでワクチンが開発され、ウィルスのタンパク質をつくるもとになる遺伝情報の一部を使ったmRNAワクチンの接種が実用化されました。この10月からの定期接種では、新たな仕組みの「レプリコンワクチン」が加わっています。レプリコンワクチンがこれまでのものと違う点は、投与されたmRNAが体内で増殖するという点です。mRNAは細胞の中でDNAが持つ遺伝子の情報を写して、タンパク質を作っているものですが、レプリカーゼと呼ばれる酵素がmRNAを複製するよう設計され、摂取量が少なくて済むとされています。しかし、このワクチンの認可は日本が世界で最初であり、「体内でmRNAが増殖し続けるのではないか」といった不安の声が上がっています。日本看護倫理学会でも、「安全性・倫理性に関する懸念を表明する」という声明を出しています。レプリコンワクチンのみならず、mRNAワクチン自体の安全性も問われています。

国分寺市では、各医療機関により使用するワクチンの種類は異なるとのことです。予防接種については、効果とともに副反応もはっきりと明記し、情報を分かりやすく公開すべきです。そもそも、長期の治験を行うなど安全性がしっかりと確認されるまで、実用化に踏み切るべきではありません。

（松岡まり）